

No,51	2024/12/28	<p>1. SparView Vol.22 No51</p> <p>今週は、Xmas休暇にて、Geo Weekは、休刊 1)AI起動ロボットやドローン 単に障害物回避、迂回ルートを通るのを、“AI付き”と言えるのか？ 素人をバカにしていると思いませんか？ 2)ドローンのソーシャルメディア対応 米国では、恐怖(45%)、嫌悪感(28%) ネガティブが多い。 日本は、どうでしょう？</p>	
		https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N51_Aldrone.pdf	
No,50	2024/12/21	<p>1. SparView Vol.22 No50</p> <p>1)リアリティキャプチャは、DX化の出発点、センサーも豊富、 2)ヘッドマウントで没入感、当初不評であったが、違和感改善に、 3)Gaussian Splats 3Dの世界に新ページ、 4)ドローンの飛び交う空、米国より日本のほうが社会の受容性大では？</p>	
		https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N50_RealityCapture.pdf	
No,49	2024/12/14	<p>1. SparView Vol.22 No49</p> <p>1)業界の3大トレンド ①生成AI ②異なるデータセット結合 ③大規模データ収集 認識通り、 2)2024年はモバイルマッピングの年であった。その通り、 3)「マップチャレンジ大会」日本でもやりたいですね、 4)AI 騒がれ過ぎ、冷めた目でみなくては、軽視はできないが、騙されないように、 5)高度、高価なシステムが大きな効果とは言えない。身近なシンプルなものでも、使い方次第、 6)ニューヨーク:没落からドローンで復活・・・こんな見方も、</p>	
		https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N49_CoolDownAI.pdf	
No,48	2024/12/7	<p>1. SparView Vol.22 No48</p> <p>1)リアルとバーチャルの双子(デジタルツイン) 大規模都市モデルは、構築は大変だが、効用は絶大、 2)生物多様性保護にGISデータ活躍、とくに気候変動対応、 3)箱入りドローン(Drone in a box)緊急対応に有効、 4)ドローンビジネス:世界は軍需がリード。日本は防災であるべき、</p>	
		https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N48_CityDigitalTwin.pdf	
No,47	2024/11/30	<p>1. SparView Vol.22 No47</p> <p>1) Atlas(地図) GISがAIのおかげで、初めての人にも使い易く。 2) 送電線の管理では、周りの植生状況が重要、ドローンの出番、 3) AI 活用で地下の地図作成支援:手に入るあらゆる情報を総動員、 4) 接触型空中検査:ドローン検査は非接触が多かったが、うまく制御できれば・・・ 5) 無人機の在来航空機並みの安全確保 100年⇒?年</p>	
		https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N47_Atlas.pdf	
No,46	2024/11/23	<p>1. SparView Vol.22 No46</p> <p>1)デジタルツイン大規模化 都市、国 レベルへ 2)GIS Day の 25 周年 3)ドローン規制の簡素化 運用取り組み易く 4)機長(PIC)とオペレーターの責任区分 5)重量物運搬用ドローン:軍事ニーズ対応が先行 6)台湾・日本JUIDA 山岳救助技術連携</p>	
		https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N46_HeavyLiftDrone.pdf	

No,45	2024/11/16	<p>1. SparView Vol.22 No45</p> <p>1) デジタルツイン、ひところ話題になり取組が始まったが、効果を出すのが難しく、停滞気味であったが、AIの普及などにより、障壁が下がり、真の普及期にはいった。</p> <p>2) CesiumとAutodesk Revit 連携: オープン化と合わせ推進力強化</p> <p>3) AEC業界の現場作業 変革抵抗が強かったが、ようやく・・・</p> <p>4) 権威のある一般情報誌Time : GeospatialとAEC 話題急増</p> <p>5) 動植物の外来種 被害甚大 ドローン活躍の場</p> <p>6) トランプ大統領のドローン業界への影響、分断激化</p> <p>7) Archer Aviation; 未来エアタクシーで日本から大受注</p> <p>8) 米国警察業務 ドローン必須</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N45_DigitalTwinUp.pdf</p>	
No,44	2024/11/6	<p>1. SparView Vol.22 No44</p> <p>1) 3D計測と活用、2025年は「フェーズ2」に、この20年間で、絶え間なく進歩、浸透してきたが、要素技術が揃い、AIも からんで、来年は新しい段階に入りそう、</p> <p>2) 時代の変わり目に「ゲームチェンジ」なる言葉が、好んで使われるが、人間の頭のチェンジができないことが問題では ?</p> <p>3) 新技術、先進国だけでなく、太平洋諸島のような途上国でも・・・</p> <p>4) 上空の高圧送電線点検、コロナ放電対策が可能なら、やり易くなろう、</p> <p>5) 空のルール、ICAOのような民間団体が主導。ドローンのASMEもそうである。公的規格頼りの日本も、見習うべき、</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N44_Phase2.pdf</p>	
No,43	2024/11/2	<p>1. SparView Vol.22 No43</p> <p>1)3D表示とデータストリーミング= シナリオ ゲームエンジン出番では？</p> <p>2)ライカ: シングルフォトライダーも普及できる段階？ 何せ、けた違いの高精度</p> <p>3)現場安全、事故防止も3Dの重要な役割</p> <p>4)米国FAA パート108準備遅れ、BVLOS普及が世界に遅れ？</p> <p>5)DJI禁止 中国政府の責任 世界の損失</p> <p>6)ドローン技術進歩に合わせ、対抗技術も 軍事のおかげ(残念?)</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N43_Scenario.pdf</p>	
No,42	2024/10/25	<p>1. SparView Vol.22 No42</p> <p>1)BentleyとCesium統合 今後も大手同士の統合、増えてくるであろう、</p> <p>2)Autodesk と ArcGIS統合もそのひとつ</p> <p>3)Google Earth 経時変化表示 用途ありそう、</p> <p>4)地理情報 マーケティング以外にも、意外な使い方、</p> <p>5)航空機の規制FAA ドローンも同じアプローチ 良いのか？</p> <p>6)ドローン パイロット専門知識の多様化 それだけ市場拡大してきた</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N42_AutodeskArcGIS.pdf</p>	

No,41	2024/10/19	<p>1. SparView Vol.22 No41</p> <p>1) Reality Capture Network主催 R-CON 2024 : このイベント取り上げるのは初めて。おなじみのスポンサー勢ぞろい、</p> <p>2)考古学への3Dスキャン:ますます盛ん。学問の深堀進む</p> <p>3)Bentley Systemsの「2024 Year in Infrastructure」 インフラ分野で、確たるポジション。Cesiumも協同。オープン思想。</p> <p>4)AEC業界にも、OpenUSDなど、オープン化浸透。 大手と言えど、一社単独では、多様なユーザーニーズに対応できない。</p> <p>5)米国:中国製DJI排除。反対多いが、強引に進みそう。</p> <p>6)LightWare :ジンバルが、こんな小型軽量に、 (カメラで動画を撮影する際に手ブレや揺れを抑えてくれる)</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N41_RealityCaptureNetwork.pdf</p>	
No,40	2024/10/13	<p>1. SparView Vol.22 No40</p> <p>1)都心デジタルツイン成功例 ボストン、チューリッヒ、ヘルシンキ、シンガポール、上海 実現の困難さ、阻害因子にも注意、 東京のような大都市、「まずは身近な小さなテーマから」は、しかたない。 しかし、究極の姿、ランドデザインを掲げたいので、部分に取り組むべき。 プラトーは、そうした理念で進められている、と信ずる。□</p> <p>2)住宅問題解決にデジタルツイン□</p> <p>3)NOAA と Esri:新しい海洋でのプロジェクト”ブルー エコノミー”推進□</p> <p>4)野生生物保護と人間社会の共存。難しい問題を抱えているが、知恵をしぼらなければならない。</p> <p>5)DJIドローン排除、米中対立激化で、ますます混迷に。20年後にどうなっているか？ 日本は、長期ビジョン、理念を掲げたいので対処したい。□</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N40_CityDX.pdf</p>	
No,39	2024/10/6	<p>1. SparView Vol.22 No39</p> <p>1)Intergeo 2024 要点 ・モバイルマッピング とくにハンディスキャナー ・企業間のコラボ ・ツールのモジュール性 ・シンプルさと専門知識 ・大規模デジタルツイン</p> <p>2)RIEGL:新製品を多数発表</p> <p>3)ライカとBoston Dynamics(犬型ロボ)統合</p> <p>4)自動運転車 高精度カメラ→安全向上</p> <p>5)iPhone 16 Proの分解:よくも、こんな薄い空間に</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N39_collabo.pdf</p>	
No,38	2024/9/29	<p>1. SparView Vol.22 No38</p> <p>1)リアリティキャプチャは、だれでも簡単に採取できるようになった。 しかし、業務に役立たせるのは、そう簡単ではない。</p> <p>2)地球観測データが、民間企業の業務にも有効に活用できるようになった。</p> <p>3)社会インフラの3Dデータ、多方面の組織で活用進む。</p> <p>4)リーグル 空撮スキャナー:一段と高性能化</p> <p>5)送電線の監視・点検開発 急ピッチ 話題豊富。</p> <p>6)話題の、3D採取の手法 NeRF 実用化進む</p> <p>7)DJI禁止の方針、大争点(米国)、 日本では、それほど騒がれていない、良いのか、悪いのか？</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N38_EarthObserve.pdf</p>	

No,37	2024/9/21	<p>1. SparView Vol.22 No37</p> <p>1)オープン化: 大手と言えど、乗り遅れると先がない！ ベントレーとセシウムどこと連携するか、高度な戦略と判断必要。間違うと、ひどい目に？</p> <p>2)NavVis: ハンドヘルドスキャナ 補助的ツールから、ワークフロー革新の主役に、</p> <p>3)目的別に最適のシステム構成で、 そのためにはモジュール化が欠かせない。</p> <p>4)AIはAEC業界を大きく良い方向に変える。しかし、注意が必要</p> <p>5)3D計測に役立つセンサー: 実に多彩になってきた。</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N37_OpenRisk.pdf</p>	
No,36	2024/9/14	<p>1. SparView Vol.22 No36</p> <p>1)Bentley : Cesiumを買収 日本でも、両システムのユーザが多く、利便性が向上するであろう。</p> <p>2)Esri, Overture Maps とのデータ統合 大手同士のデータ統合、時代の流れ。独自孤立路線では、生き残れない？</p> <p>3)ハンドヘルド・スキャナー 補助的・補間的利用から ワークフロー変革の主役に、</p> <p>4)米国: 根強い反対があるなかで、中国製DJI禁止。残念！</p> <p>5)次世代空モビ改革Advanced Air Mobility (AAM) 既存の小型ジェット機含めて、成立可能なビジネスモデルは・・・ 当面試行錯誤が続くであろう。</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N36_FeasibleAAM.pdf</p>	
No,35	2024/9/8	<p>1. SparView Vol.22 No35</p> <p>Commercial UAV Expo 2024 が先週開催されたので話題豊富</p> <p>1)FAA のBVLOS(視界外飛行)のルールが、やっと決まったので一挙に利用が広がるであろう。先日、小池さんからFAAの報告をいただいたが、日本と違い、空の移動手段として広く定着している中でのUAV統合。調整に時間がかかったのも頷ける。</p> <p>2)建設現場でのAI活用、現場問題に苦勞してきたエンジニアが主役、難しいシステム技術を使わなくても、簡単に構築できる。これこそAIの役割なのでしょう。</p> <p>3)新手法ガウススプラッティング 従来の手法に比べて圧倒的に小さいメモリでできる。世の中変わりそう。世界中で話題続く。</p> <p>4)ウクライナ ドローンが強烈な痛みを伴う武器なれど、復興の時の外貨獲得巨大輸出産業になる。</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N35_BVLOS.pdf</p>	
No,34	2024/8/31	<p>1. SparView Vol.22 No34</p> <p>1)各種センサー情報を、うまく組み合わせれば、コストをかけずに高精度取得ワークフロー。 弱点を補いあう、</p> <p>2)農地データの分別にも、AIが有効</p> <p>3)AI利用拡大、気候変動などで電力需要上昇。さらなる工夫が必要。</p> <p>4)リアリティキャプチャの世界にも標準化の必要性高まる。</p> <p>5)米国 航空管理先進国のため、逆にドローン拡大に難しさ、</p> <p>6)フォード: ドローンの先端技術にも、</p> <p>7)女性ドローンパイロット躍進</p> <p>8)BVLOS UAV安定確実通信 今後の大きな課題、原文追記した。</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N34_WomanPilot.pdf</p>	

No,33	2024/8/24	<p>1. SparView Vol.22 No33</p> <p>1)月面地形の3Dマッピング 役立つ時が近づいてきた。 2)デジタルツインは、現実と瓜二つの姿をバーチャルに実現するが、 現物のリアルデータがリアルタイムに得られることから、リアルと バーチャルの融合の取組が増えてきそう。 3)次回のロスオリンピックは、3Dを駆使し、新たなハード建設は最少限に 留まる。車を一切使わない姿、興味あり。 4)高度没入感で、現場のエクスペリエンスが体験できるようになるであろう。 5)ドローンを使ったビジネスモデル 輪郭がかなりはっきりしてきた？</p> <p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N33_MoonMapping.pdf</p>	
No,32	2024/8/17	<p>1. SparView Vol.22 No32</p> <p>1)NeRFとガウススプラット 話題続く:3次元ビューワ変革 日本でも、情報交換を密にし、海外勢と足並みをそろえたい、 2)オリンピック 3D技術がこれほど大々的に活用。初めて、 3)欧州航空測量産業協会(EAASI) 若手人材育成拍車、 日本も負けていないと思うが・・ 4)Esri 世界での出番、存在感 急伸。当然であろう、 5)地球観測、宇宙観測 活況、これも時代の流れ、 6)ドローン産業解読(decoding) 哲学的取組は、やはり欧州が得意、 ドローンマップ SPARJのホームページにも掲載、</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N32_DroneMap.pdf</p>	
No,31	2024-8-3	<p>1. SparView Vol.22 No31</p> <p>1) オリンピックに3D計測 大活躍! ここまで広範・高度利用始めて、 (1)セキュリティ対策・監視 テロ、妨害・違法ドローン排除 (2)報道ツール Cesium 利用など (3)審判支援 3Dレーザスキャナー 当然、大阪万博では、さらに進んだ活用が行われるはず・・ 2)オープン化、標準化:従来の”顧客の囲い込み戦略” 終焉か? 競争の形 変革。短期的・近視眼的戦略⇒没落へ 3)生成AIの活用: 上辺の誘いに惑わされないように! 本筋は何か? 4)Esri と Autodesk強豪が連携 「寄らば大樹」か、独自路線か 難しい。 5)ドローン市場 弱小企業の集まり 生き残るためには、仲間を増やすしかない?</p> <p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N31_Olympic3D.pdf</p>	
No,30	2024-8-3	<p>1. SparView Vol.22 No30</p> <p>1)3Dシミュレーションのシナリオ記述標準化 OpenUSD 進む。 何せ世界トップに上り詰めたNVIDIAが主導するので抗えない。 ゲームエンジンの出番も加速、 2)衛星通信の活用、軍事・民需とも急伸 非常に便利に = 非常に危険に 3)オープンマップデータ Overture Maps Foundation 着目 4)協同しながら競争、当たり前の時代に 5)日本製ACSLドローン 海外で頑張れるか?</p> <p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N30_NVIDIA_OpenUSD.pdf</p>	
No,29	2024/7/29	<p>1. SparView Vol.22 No29</p> <p>1) NeRF(ナーフ)とGaussian Splats 登場、 3次元計測技術とビジネスに激震なるか? 2) AIとロボット; AEC建設業界に革命 否応なしに進む。 恐れるのでなくて、このチャンスを利用すればよい、 3)米国: 中国製DJI使用禁止 賛否両論。少なくとも、そうなった時の 対策を真剣に考えている。日本では、騒がれていないが・・・</p> <p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N29_NeRF_GaussianSplats.pdf</p>	

No,28	2024/7/20	<p>1. SparView Vol.22 No.28</p> <p>1) 地理情報最大手Esri がVertiGISと提携:3D化サービス拡大 2) 端末側エッジコンピューティング広がる。 通信しなくて良いので、超高速処理可能に、EdgeAI も。 3) Bathymetric LIDARの沿岸環境のマッピング 特に日本に重要、 4) 多システム連携に、データ標準化不可欠。困り込みは時代遅れ、 5) スマートシティは、まずスマート交差点から、 6) DJIの禁止の余波、サプライチェーンから、 7) ドローンデータ侵害やランサムウェア: 非常に便利=非常に危険、 8) ドローン配送:米国遅れ、インフラ未熟な開発途上国先行、当然なり</p> <p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N28_EdgeComputer.pdf</p>	
No,27	2024/7/13	<p>1. SparView Vol.22 No.27</p> <p>1) 地理空間情報への関係者増加、システムも多様化。 統合のために標準化必須。 2) Geoとリアリティキャプチャー:さらに密接な連携 3) 海底沈没船などの遺跡:フォトグラメトリーで精細な3Dモデル 4) 海面ドローン: 嵐の中で大活躍。たしかに地上・空中より、はるかに有利。 5) ソリッドステートライダー;まだ発展段階、課題多し</p> <p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N27_DataStandard.pdf</p>	
No,26	2024/7/6	<p><訳者コメント> 今月から、英国発行のUASvision の掲載を中止します。その代わり、米国Diversified Communication発行の Geoweek,CommercialUAVなどの紹介の質を高める工夫します。単なる5W1H のニュースだけでなく、編者の意図する「流れ」と小職の理解を加えていきます。ご意見、アドバイスなど歓迎します。</p> <p>1) 地方自治体のDX、行政に注文つけるより、住民参加のボトムアップのほうが重要です。SparPlaza 自治体DXopen クラブは、それを目指します。 2) GISも3次元化が必須、ゲームエンジンUnity の出番、当然ですね、 3) NeRF (Neural Radiance Fields) 理解できません、どなたか試された方、教えてください。 4) GISワークフロー自動化: オープン化と外部とのデータリンクがポイントのようです。 5) 中国由来DJI禁止: 米国に追従する必要ない、日本独自の戦略を立てて欲しい。</p> <p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N26_AgriDX.pdf 2024-07-06</p>	
No,25	2024/6/30	<p><訳者コメント> 1) どの産業界でも同じであるが、とくに膨大なデータ量を扱う「地理空間Geospatial」へのIT技術による変革が激しい。 2) デジタルツインの対象も、設備、工場一式、都市、国、地球レベルに広がってきた。 3) ベンダーロックインを回避・ユーザが賢くならなければ。</p> <p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N25_Geospatial.pdf</p>	
No,24	2024/6/22	<p><訳者コメント> 1)Google没入型3Dで、3Dビューワ・ポツリおよびゲームエンジン活用の出口、開発加速できそう、 2)ディステーション・マーケティング ビジネス戦略に直結。やはりお金が動かなければ・・・ 3)インダストリアルメタバース あまり騒がれなくなったが、着実に用途は拡大、 4)海底測量: 防災・防衛・海底資源などでの重要性アップ 5)ArcGISも3D活用加速、 6)市中を飛び交うドローン: 一挙には広がらないが、世代が変わるころ(20年?)ごく普通の交通手段に、</p> <p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N24_GoogleImmersive.pdf</p>	

No,23	2024/6/15	<p><訳者コメント></p> <p>1)巨大データセンター建設、まだ当分続きそう、電力心配、 2)空中ロボット=ドローン 効果絶大、 3)欧州におけるドローン産業 一時縮小 再起なるか？ 4)ドローンデータの所有権問題、要注意！ 5)量子慣性航法(Quantum Inertial Navi) 電波妨害に強いので、これから出番、 6)パリ五輪:ドローン攻撃防げるか？ 他人事ではない、大阪万博、</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N23_AirRobot.pdf</p>	
No,22	2024/6/8	<p><訳者コメント></p> <p>1) DJI マッピング、アルプス高地、災害対応 など 価格性能の優位続く、 2) AI便利だが、人間の創造性抑圧の危険性、 3) 太陽異常 予想通りで対策済なれど、電波障害要注意、 4) Overture Maps Foundation オープン化 競争相手と言えど、手をつながないと生きてゆけない、 5) グローバルサウス の話題増えてきた。世界の流れ変わり目、 6) 窮地に陥っている人を、一刻も早く救助したい！ という執念、 これが大切。世の中を動かす。 7) 航空事業はとっくに成熟期、買収、人員整理、たしかに変わっていた。 無人機は、まだ揺籃期、なれど揺籃期なりの整理・統合が始まっている。 8) ドローン関連イベント ヨーロッパ増えてきた。 9) NTTドコモ HAPS大型投資 10) 水素動力航空機:2030年まで急成長</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N22_dangerAI.pdf</p>	
No,21	2024/6/1	<p><訳者コメント></p> <p>1)生成AIで、2次元画像が生成できるので、当然3次元形状も、 2)データ統合、連携の波が、大手同士の間にも活発に、 3)3Dビジネスの評価指標にCost-Per-Minute(CPM) 4)ドローン電力問題から、ハイブリッドが急増し始めた、 5)日本領土近くでも、キナ臭い動きが・・・ 過酷さを増す自然災害と併せ。高まる危機意識。</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N21_DataFusion.pdf</p>	
No,20	2024/5/25	<p><訳者コメント></p> <p>1)政府や地方行政における改革には、利害関係者も多く、調整に難航することも多い。 GISや3Dモデルが、コンセンサス形成に大きな役割を果たせるテーマも多い。 2)単一光子(single photon) 空中ライダー、光は波であり、粒子(量子)ともいえる。 1個、2個と数えるガイガーモードも古くからあるが、高価と重量が課題。中国が 小型軽量化に成功したのかな？ 3)ドローン電力問題、ハイブリッド普及が加速、 4)ドローンによる空中風力発電、うまく制御できれば効果絶大 5)数十億する無人機、安価なミサイルで撃ち落とされる、たまらない、</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N20_Hybrid.pdf</p>	
No,19	2024/5/19	<p><訳者コメント></p> <p>1)都市モデル、スマートシティ、デジタルツイン 話題が増えてきた・ これに空モビ(ドロン含めた空のモビリティ)が、加わり、活況が続くであろう。 2)数億、数十億 の軍事ドローン 莫大なカネが回り続ける。一部の関連産業は急上昇。 その分、社会保障は削減、大多数の国民は苦しく・・・悲しい！ 3)あいかかわらず、世界を動かし続けるのがIT技術、 ITと人間との接点でゲームエンジン技術が重要な役割。 4)ニューロモルフィックビジョン 生物模倣(bio mimetics)は、画像認識に極めて重要な技術であることは、知られているが、実 装レベルで、ここまで実現できるようになったのですね・・・訳者は、ついていけません。原文に は、少し詳しく解説されている。・・・頭の柔らかい若い人に期待)</p>	
		<p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N19_Neuromorphic.pdf</p>	

No,18	2024/5/4	<p><記者コメント></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) シーメンスとNVIDIAが産業用メタバース・絶妙のコンビ 2) 建設産業 脱炭素に大きな責任 3) 民生用と防衛用ドローン 一体に、 5) ヨーロッパのドローンイベント アムステルダムで 6) 配送用フォローン 大型化進む <p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N18_Metaverse.pdf</p>	
No,17	2024/4/29	<p><記者コメント></p> <ol style="list-style-type: none"> 1)ポケモンGO の言葉は聞かなくなったが、現場でのAR技術は、急拡大が続いている。 2)Mixed Reality(MR)とCesium 3D表示話題に頻繁に登場。東京都のプラトーの影響か・・・ 3)持続可能 (Sustainability)には3Dデータ欠かせない 4)ドローン関連イベント:ヨーロッパではアムステルダムが中核に、米国よりも戦略性が明確。日本は、こちらから学ぶべき？ 5)Modovolo: マルチコプターの形は決まっていると思っていたが、こんな斬新な発想も・・・ 6)パリオリンピックのドローン対策 最高レベルの警戒態勢。(大阪万博 大丈夫か?) <p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N17_ARMR.pdf</p>	
No,16	2024/4/21	<ol style="list-style-type: none"> 1)Gaussian Splatting 3Dシーン作成 ゲームエンジンが、その一つであるが、この分野まだまだ革新が続くそう。 2)アムステルダム・ドローン・ウィーク(ADW):ヨーロッパにも大きな拠点が、 3)医療、ヘルスケアにも3D計測、ドローン活用が話題が増えてきた、 <p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N16_HealthCare.pdf</p>	
No,15	2024/4/14	<p>1. SparView Vol.22 No.15</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ゲームエンジンがワークフローを革新 ITと人間との接点として、ますます重要、 2) ITの巨人GAFAM その牙城も 変革か？ 3) 地下・海底のマッピング 見えるようになった。 4) Drone Safety Day 2024:4月末 米国FAA主催 日本でも、同時開催したらどうか・・・ 5) 中国の巨大配送ドローン 積載700kg 6) ウクライナのドローン戦争 ますますエスカレート、 <p>https://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N15_GameEngine.pdf</p>	
No,14	2024/4/7	<p>1.SparView Vol.22 No.14</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)建設業界(AEC)のデジタル化では、やはりオートデスクが、一番の存在感 2)個別業務のデジタル化から、一連の流れ(ワークフロー)のデータ連動に重点へ、 3)箱入りドローン(Drone in a Box)が再び話題に、自動化の要といえる。 4)米国での中国製DJI 禁止;大混乱やむをえないか？ 5)ヘッドアップディスプレイは、ヘッドマウントディスプレイとは別物、 6)高速道路があるように高速空路も登場しはじめた。 7)日本:第1種固定翼ドローンの型式証明申請・・・残念ながら外国製 8)伝染病との戦いにドローン:便利だが危険？ <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N14_AEC_WorkFlow.pdf</p>	

No,13	2024/3/30	<p>1.SparView Vol.22 No.13 1)3D業務の3段階(採取、処理、表示)のうち、表示(ビジュアライズ)の話題と技術革新が盛ん何せ、人間との関わりそのものだから、 2)水系循環の、地球規模のデジタルツイン、なるほど重要だ、 3)箱入りドローン(Drone in a Box)、以前から想定していた通り、急速に発展、 4)無人航空機産業はまだ黎明期、まだよちよち歩き、そう簡単には大きくならない、 5)公共安全用ドローン:日本の先進性期待したが、世界の動きのほうが活発。残念! 6)ドローン市場の拡大のテンポ 期待より遅いが、農業分野だけは別のようなのだ。 7)癪であるが、ドローンの大マーケット、中国製DJIが当然集中してくる。 8)人乗りドローン、これも中国製EHangがもっとも経験豊富。日本に拠点開設。</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N13_Visualize.pdf</p>
No,12	2024/3/23	<p>1.SparView Vol.22 No.12 1)リアリティキャプチャは、さまざまな分野で利用されているが、マーケットとしては、AEC分野が圧倒的に大きい。 2)「箱入りドローンDrone in a box」利用広がる。遠隔、自動化の効果大 3) 米国 リモートID 普及に苦労している。日本も、よほど気を付けないと・・・ 4)ドローン配達の実験者・巨人 アマゾン 相変わらず苦戦続く、 5) 韓国 武器輸出が大きな財源。日本もやれるが、矜持を保ちたい。 6) Terraドローン:米国市場に、徳重さんの世界観・野心 応援、</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N12_DroneBox.pdf</p>
No,11	2024/3/9	<p>1.SparView Vol.22 No.11 1)DroneDeploy:「AEC分野リアリティキャプチャー現状」報告 ほぼ全員ドローン使用、半数が3脚 2)自転車MMS:歩道計測 3)Stonex: X70GO 最新の3D SLAMベース モバイルスキャンと固定モードを組み合わせ、最高の解像度 4)建設業におけるドローン利用進む 5)FAAの手続きの煩雑さと指導力の無さに、業界不満 7)eVTOL Pay-Per-Flight こんなビジネスモデルあり得る 8)SF有権者:顔認識ドローンを承認:国家権力による国民監視強化 9)商用ドローン市場成長? 軍事関係での急激な伸びは、明らかであるが、商用がこのスピードが続くとは思えないが・・・ 10)芝浦工業大学:高度なノイズ抑制技術で捜索救助ドローン改良 11)検査ドローン電源を送電線電界から 誰でも思いつくのが、やっと実現</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N11_DroneMarket.pdf</p>
No,10	2024/3/9	<p>1.SparView Vol.22 No.10 1)VRヘッドセット:現場浸透には、まだ人間工学的な課題が多い 2)建設業界へのリアリティキャプチャ 役立つことは分かったので、これから本格普及 3)ドローン業界への投資:急成長から急減 正常な姿に?、 4)ドローン 真夜中でも自動飛行可能になった。 5)福島原子炉:ドローン・ロボット調査難航</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N10_HeadSetVRnotYet.pdf</p>

No,9	2024/3/3	<p>1.SparView Vol.22 No.09 1)GeoWeek Droneが主役 2)視界外飛行(BVLOS)米国でも普及し始めた 3)インフラ・デジタルツインの効用進む 4)AI付きドローン 当たり前 5)ウクライナ ドローン戦争の様相 6)F1レース:世界最速の撮影用ドロー</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N09_GeoWeek.pdf</p>	
No,8	2024/2/24	<p>1.SparView Vol.22 No.08 1) 地理情報産業(Geo)でのドローンの存在感 ますます増大、 軍事含めて、自動車産業並みになるか？ 日本は出遅れた。頑張ろう！ 2) 設計と製造のワークフローを結ぶ「インフォームドデザイン」、新しいワード、 3) やっと日本もBIM浸透に追いつきかけた、と思ったら、目標のBIMが激変？ 4) 「コンバージェンス(収束)」要はデータ統合に向かうこと、 5) 小形ドローンは、ユーザに近い場所「エッジ」で製造可能。 サプライチェーンの形も変わりますね、 6) ドローン向け小型軽量マイクロジェットエンジン などあるのですね、</p> <p>2.20周年記念 第20回 3次元計測フォーラム SPAR2024J 5/7,8 http://www.sparj.com 一時、これを機にイベント名を、SparPlaza (交流広場)に、変えていく、との告知しようとしたが、愛着のある(?)、呼び名を変えないほうが良い、との意見が寄せられ、第21回 第22回・・・を続けていきます。Pazaは、意見交換・人脈形成を主眼とする各種クラブ活動の総称とします。</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N08_GeoUp.pdf</p>	
No,7	2024/2/17	<p>1.SparView Vol.22 No.07 1) GeoWeek2024 終了。各種イベント統合し、展示会として確固たるポジション確立。 始めて聞く名前の企業や商品名、まだ発展段階の証拠か、 2) 各種性能競争もさることながら、人間性、人間との関わり方が注目、 3) AIの適用、当たり前になってきた。 4) 軍事ドローン;ますます加速。カネと人が集まる。武器が売れなくなると失業。 平和になると困る人が急増。やりきれない！ 5) Skydio :すべての性能で中国製DJIを凌駕している？ 本当だと信じたい。 小形普及版では、勝ち目はない、とGiveUpしたので、できて当然、</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N07_WarCrysis.pdf</p>	
No,6	2024/2/10	<p>1)海底地形(等深線:Bathymetry)の重要性が盛り上がってきた。 気候変動対応および資源採掘のため、 2)DJIの3Dモデル編集ソフトウェア「DJI Modify」利用者歓迎 3)スマホで3Dスキャン「Polycam」など:次々出てくるであろう、 4) ”インテリジェント”の代わりに”スマート”という言葉が使われることが多くなった(10数年前からであるが・・・) 5)日本ドローン:5Gアクセスで高解像度ビデオ、 視界外飛行BVLOSへのレベル4許可など、この分野で日本が 進んでいる面もある。心強い。</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N06_Bathymetry.pdf</p>	

No,5	2024/2/3	<p>1.SparViewVol22 No.05 1) AIが、なじみの薄かった建設業にも随所に、 2) 巨大化するデータファイルへの挑戦 3) ドローン改革：アジア>米国？ 4) 完全自動運転(レベル5)は、不要？、</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N05_BigDataChallenge.pdf</p>	
No,4	2024/1/27	<p>1.SparViewVol22 No.04 1)都市のユートピア:バーチャルなら自由な発想でトライ 発想転換に役立つかも、 2)FOSS4G 地震リスク評価、日本は OSGeo が窓口 活躍期待、 3)ヨーロッパの統一地籍図 多国間の壁を超える努力、 日本は単一国家 もっと早く進むはず、 4)ACSL 海外で評価、 日本国レベルで応援すべき 鷲谷社長には、SPARJで講演いただいたことあり、</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N04_CityUtopia.pdf</p>	
No,3	2024-01-20	<p>1.SparViewVol22 No.03 1) LiDARの利用は、まだまだ広がる。 2) 2024年に注目すべき技術動向 これだけ多くの技術が、一度に普及、目が回りそう、 3) エッジクラウドも流行りそう、 4) メタバース、話題は沈静化したが、着実に広がっていく、 5) 人手不足;AIとロボット利用、当然加速、 6) 原子力電池、昔からあるのですね、半永久的に供給、 7) 個人の人権抑圧、だから中国の新技術開発早い、</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N03_NewTechnologyRush.pdf</p>	
No,2	2024/1/13	<p>1.SparViewVol22 No.02 1)点群分類におけるAIの役割 機械学習のさせかたにも、さまざまな工夫があるようです。 原文参照ください。 2)ドローン搭載のRIEGLスキャナー:精度向上 3)インフラのスマート化(高機能・高精度)今ならできる。 4)遺跡の3D保存は、ポピュラーだが、古生物の分野もあるのですね、 5)トヨタも自前技術だけでは、開発スピード競争に勝てない 6)LIDAR、カメラ、レーダーの技術を詳細に比較 掲載2回目。こちらの方が詳しい。 7)米国の中国製ドローン排除の法律： 線路の真ん中に立って、 高速で向ってくる列車に「止まれ！」と叫ぶようなもんだ？ 8)ディズニーパリ:ドローンでスカイ・パレード さすがセンスあり、 9)日本のドローン研究の先生2人登場 鈴木聡 准教授(千葉大学)、島田健二 教授(カーネギーメロン)</p> <p>http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N02_PointCloudByAI.pdf</p>	

No,1	2024/1/6	<p>1.SparViewVol22 No.01</p> <p>1) シンガポール; 都市まるごとデジタルツインで有名。東京もプラトード？</p> <p>2) 水路・河川の3Dマップだけでなく、将来は地下水脈のマップも必要では？</p> <p>3) 地理大手Esriの3D化は、10年近く前から進んできているが、ついにデジタルツインレベルへ</p> <p>4) 画像の「ゴースト」問題、日本の優秀な光学機器メーカーが昔から開発していたのでは・・・？</p> <p>5) AIの活用、あらゆる業務に。3Dスキャンにも当然、</p> <p>6) 日本に関わるニュース4本</p> <p>①モンゴル配送JUIDA、②日米でAIとUASの共同研究、③NASA と JAXA 共同で災害復旧、④倍倍ドローンレース！</p> <p>7) ドローン配送2024に・急増・ハイプは去ったがゆったりと、恐らく両方とも正しい</p>	
		http://www.sparj.com/SVJabst/SVabst(22)/SparViewV22N01_Japan.pdf	